

市民参画の図書館づくりと図書館運営 ～もちより・みつけ・わけあう広場の実現をめざして～

岡山県 瀬戸内市民図書館

基本データ

所在地	岡山県瀬戸内市邑久町 尾張 465-1
職員数	12人
うち司書数	11人
蔵書数	128,537冊
利用登録者数	18,510人
年間貸出冊数	280,155冊
	(児童用図書貸出数 95,675冊)

テーマ・活動のねらい等

【テーマ】地域の課題解決、まちづくり

【活動のねらい】

- 新しい図書館を整備するにあたり、市民が主体的に意見交換すること。そして、新図書館で、市民が自主的な活動をし、その活動が、地域の課題を解決する支援となること。また、図書館整備事業の過程そのものが、将来を見据えた「図書館のあるまち」の議論の場となること。開館後も地域の課題解決に役立つ図書館であること。

取組・活動の概要

- 瀬戸内市では、2010年から始まった新図書館の準備過程において、市民と「これからの瀬戸内市としての図書館像」を意見交換する場として、「としょかん未来ミーティング」を重ねてきた。
- 「としょかん未来ミーティング」はワークショップ形式で行う回、市内の公共施設の見学や、既存図書館の現状把握をする回、図書館の機能について学び合う講演会やシンポジウムを開催する回などがあり、様々なアプローチから、市民の図書館に対する理解を深めた。
- そのうえで、参加者から図書館の設備やサービスに関する要望やアイデアを出してもらい、グループで討議や発表を行うなどして、市民の意見をより具体的に捉えていった。
- ワークショップで集めた意見を踏まえて、2012年3月に「新図書館整備基本計画」を策定した後も、市民・行政・設計者等が意見交換をしながら、整備計画を積み上げていった。
- 11回の開催を経て、「もちより・みつけ・わけあう広場」をコンセプトに、2016年6月に新図書館を開館。
- 開館後も、継続して開催し、地区館のあり方や地域の課題解決における図書館の役割などを協議し、運営に反映している。

【「としょかん未来ミーティング」開催実績】

- 計13回、参加者684人。



としょかん未来ミーティングの様子

【もみわ祭】

- 図書館の開館月である6月には、毎年「もみわ祭」を開催し、図書館がまさに市民交流の場となっている。2018年度のもみわ祭参加者は3,037人。

【行政機関との連携】

- 連携企画として、市民が関心を寄せる多様なテーマ（防災・環境・消費生活・ふるさと納税・観光・子育て・健康・医療等）で、パンフレット・チラシ・啓発物品と共に関連書籍の展示、ゲストを招いた交流会、講演会等を行っている。

【「認知症予防」に関する取組】

- 図書館から高齢者施設に出向き、回想法などを実施する移動図書館「いきいきお届け便」。
- 館内に認知症に関する本を集め、地域包括支援センターのパンフレットなどを置いている「認知症にやさしい本棚」の設置。

- 認知症の本人や家族、関係専門職などが集い、交流する場として「つくしカフェ（認知症カフェ）」を図書館で開催。

取組・活動の工夫や特徴

- 「としかん未来ミーティング」を開催する際には、基本的に、申込不要とし、より多くの方が気軽に参加できる雰囲気作りに努めた。
- 様々な立場の市民が参加できるように、平日や休日など実施日時の設定や子ども編の設定など、対象も工夫した。
- 広報誌を通じた告知を主にしていたが、現在は、それに加えて SNS を通じた告知を行っていて、効果的である。

取組・活動の成果や今後の展望

【市民ボランティア団体との連携】

- 開館準備段階では、市民団体が、市議会に新図書館の整備を望む陳情を出したり、図書館基金へ寄附をするために応援ステッカーを製作・販売したりするなど、市民の援助を得た。
- 開館半年後には、図書館を応援してくれる市民をつなぎ、市民がボランティアで活動する場として「図書館友の会"もみわフレンズ"」が結成された。イベントの運営や、環境整備等に携わり、図書館と相互に協力して図書館を盛り上げている。
- 様々な方面から市民に情報を提供し、生活に役立つ図書館として、連携事業を展開している。



「図書館友の会"もみわフレンズ"」作成の瀬戸内市ふるさとかるたで、かるた大会（もみわ祭）